

SDGs BOOK

COOP SAPPORO



- 環境活動報告
 - 組織概要
 - SDGs対比表
- ひとりで親家庭の高校生への育英奨学金事業
食へるたいせつフェスティバル2022
108店舗目そうえん店オープン
移動販売車 おまかせ便カケル
畑でレストラン／ぶどう畑でレストラン
プライベートブランドなるほど商品
親子の遊び場トックスステーション
ずっと親子のたからものえほんがトックスほか
- 人と人／人と食／人と未来

活動報告

大学と生協が
北海道のために
できること

特集2 対談
北海道大学総長 寶金清博 × 大見英明

COOPさっぽろ理事長

特集1
北海道の環境への取り組み
地球の未来は
私たちの選択に
かかっている

海のクリーンアップ大作戦！
店舗での環境活動／生ごみ処理機導入
脱炭素社会の実現に向けた店舗の取り組み

2023

温室効果ガスによる地球温暖化問題と向き合う

買ってカーボンオフセット※ 北海道の森に海に乾杯!

コープさっぽろは2022年、サッポログループ(サッポロビール(株)、ポッカサッポロ北海道(株)、マルハニチロ(株)、カルビー(株)、ホクレン農業協同組合連合会、よつ葉乳業(株)、北海道コカ・コーラボトリング(株)、日糧製パン(株))と「北海道の森に海に乾杯!」共同キャンペーンを実施。同キャンペーンは13年からスタートして10回目を数えました。対象商品を購入することによりカーボンオフセットし、北海道の森林保全活動に貢献。さらに売上げの一部は「コープ未来の森づくり基金」に寄付をして海の保全活動にも貢献します。



※カーボンオフセット…日常生活や経済活動で避けられないCO₂等の温室効果ガス排出についてできるだけ削減努力を行い、どうしても排出されるものについては排出量に見合った他の場所での排出削減・吸収量等の購入により埋め合わせるという考え方。



・画像は2022年対象商品の一部です。

- サッポロビール製品、ポッカサッポロ製品／1本につき1円分のCO₂約66g、ワインは1本につき10円分のCO₂約666g
- マルハニチロ製品／1パックにつき2円分のCO₂約133g
- カルビー製品／1袋につき1円分のCO₂約66g
- ホクレン製品／1袋につき10円分のCO₂約666g
- よつ葉乳業製品／1パックあたり2円分のCO₂約133g
- 北海道コカ・コーラボトリング製品／1本あたり1円分のCO₂約66g
- 日糧製パン製品／1袋あたり1円分のCO₂約66g

10回のトータル
カーボンオフセット量 **1397t-CO₂** 排出権購入額 **2117万5000円(税別)**
2022年度 カーボンオフセット量180t-CO₂／排出権購入額180万円(税別)

COOP CYCL
コープサイクル

北海道の暮らしを豊かにする
コープさっぽろの取り組みがもっとわかる。
「北海道で生きることを
誇りと喜びにする」ためのプラットフォーム
<https://coopcycle.sapporo.coop/>

コープサイクルは
こちら

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットですべての参加国が合意し採択された、2030年に向けた世界共通の目標です。すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として17のゴールが設定されています。

コープさっぽろSDGs BOOKについて(編集方針)

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」、2007年から「CSRレポート」の発行を続け、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示を続けてきました。現在、2030年に向けて世界的にSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが加速しています。コープさっぽろは北海道においてSDGsを推進することを目標としており、「事業」「組合員活動」の両面でSDGs実現に向けた課題解決を推し進めています。その活動の一部ではありますがここにお伝えし、皆さまにも持続可能な社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

- 報告対象期間／2022年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2022年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2023年3月20日現在のものです。
- ホームページ／<https://www.sapporo.coop/>
(当該情報に関するホームページでの公開は、2023年6月を予定しています)
- お問い合わせ先／生活協同組合コープさっぽろ 組織本部 広報部
〒063-8501札幌市西区発寒11条5丁目10-1 TEL 050-1741-5516

- 発行年月／2023年5月発行
次回は2024年5月の発行を予定しています。



INDEX

特集1

北海道の環境への取り組み 地球の未来は 私たちの選択にかかっている

- 05 | CASE01 海のクリーンアップ大作戦!
- 08 | CASE02 店舗での環境活動／生ごみ処理機導入・
「再生可能エネルギー100%」の電力へ・壊れた魚函を買い物かごに
- 11 | 環境・社会貢献への取り組み 沿革(2008年～)

16 | コープさっぽろ事業MAP

人と人 活動報告

- 18 | ひとり親家庭の高校生への
育英奨学金事業
- 18 | 4年間で100万円給付
大学生育英奨学金
- 18 | 新入職員の奨学金返済を補助
職員奨学金返済支援制度
- 19 | 支援総額1億円超
ウクライナ緊急募金
- 19 | 高齢者見守り 市町村と協定締結
- 19 | ホッキョクグマ応援プロジェクト
- 19 | 食をつくる喜び伝える
トドックフードキャババン
- 20 | コープのお手伝い こまるとコープ
- 20 | 全道へ拡大中 コープの家族葬
- 20 | 高齢者向け“まる元”運動教室
- 20 | 長く働ける環境を構築
障がい者雇用

人と食 活動報告

- 21 | 食べる・たいせつフェスティバル2022
- 22 | 108店舗目 そうえん店オープン
- 22 | ちびっこコープデー／ゴーゴーコープデー
- 22 | 北海道ロジサービス ロジスティクス大賞受賞
- 23 | 移動販売車 おまかせ便カケル
- 23 | 宅配トドック利用者46万世帯
- 23 | 夕食宅配サービス年間197万食
- 24 | 畑でレストラン／ぶどう畑でレストラン
- 24 | 高校生チャレンジグルメコンテスト
- 24 | 自炊塾／アニマドール
- 25 | プライベートブランド なるほど商品
- 25 | 〈新発売〉北海道産別海牛乳アイス(コーヒー)
- 25 | 〈新発売〉北海道の大豆深煎りの
旨味さなこねじり
- 26 | 北海道初の夜間中学へ
お弁当形式の給食提供
- 26 | スクールランチ校で食育授業
- 26 | 店内で手作り 大惣菜化プロジェクト
- 26 | 取扱店舗拡大 PBスイーツトヨヒコ

特集2

SPECIAL TALK 大学と生協が 北海道のためにできること

- 12 | 寶金清博×大見英明対談

人と未来 活動報告

- 27 | ランドセルカバー贈呈 応援ノート配布
- 27 | コープ未来の森プロジェクト
- 28 | 最新事例から学ぶSDGs研究会
- 28 | 親子の遊び場トドックステーション
- 29 | ずっと親子のたからもの えほんがトドック
- 29 | ファーストチャイルドボックス
- 29 | コープさっぽろの取り組み紹介サイト／
コープサイクル
- 30 | 環境活動報告
- 32 | コープさっぽろの組織概要
- 35 | SDGs対比表
- 36 | 買ってカーボンオフセット
北海道の森に海に乾杯!

ともに、知る。 ともに、考える。

コープさっぽろは、北海道に貢献する問題解決型組織を目指し「つなぐ」を合言葉に、事業活動を通じて社会問題の解決に取り組んできました。

買い物困難者対策として移動販売車事業を始め、料理が作れないお年寄りのために配食事業を立ち上げました。物流ネットワークを強化し、宅配トドックの取扱品目は2万点を数えます。

私たちは、北海道のどこに住んでいても食を維持し、暮らし続けられる環境づくりに努めてまいりました。

こうした「歯止め対策」を進化させる一方で、私たちは次のフェーズへ移行する段階にきていると感じています。

たとえば、貧困にあえぐ若者たちに手を差し伸べる手段はないか。たとえば、頼る人のないお年寄りのために何かできることはないか。たとえば、北海道の産業振興に向けて小売業の立場からできることはないか。たとえば、地球規模の問題に対して今日から私たちにできることはないか。

コープさっぽろだからできることも。コープさっぽろだけではできないことも。この冊子をきっかけに、ともに知り、ともに考えられたらと思います。つなぐ、その先に。



50周年を機に「つなぐ」の合言葉を入れた新ロゴマークが誕生。

組合員さんや職員の強い願いと思いから生まれた新しい取り組みに掲げる「安心」と「革新」の旗印です。

安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道へ広げていきます。

コープさっぽろの伝言（新理念体系）

コープさっぽろの合い言葉

つなぐ

コープさっぽろの理念

北海道で生きることを誇りと喜びにする

コープさっぽろの使命

「安心」と「革新」

各事業の考え方

- 「店舗」…………… いのちの基本である「食」を大切に。
- 「宅配トドック」…………… 笑顔をとどけ、笑顔をいただく。
- 「移動販売車カケル」… どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。
- 「社会給食」…………… 健康と成長を見つめて行く。
- 「エネルギー」…………… 北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。
- 「水工場」…………… 北海道のかけがえのない資産を預かっている。
- 「共済」…………… 助けあいの心をひとつにする。
- 「フリエ」…………… 家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。
- 「トラベル」…………… 人生という旅をさらに豊かにする。
- 「生活文化事業」…………… 学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。

コープさっぽろが大切にすること

- わかちあう
- ささえあう
- おもいあう
- たすけあう
- まなびあう
- ふれあう
- たたえあう

海のクリーンアップ大作戦!

2022年6月15日・18日開催



「年間約800万トンのプラスチックごみが、街から川を経由して海へと流れ着いています。いま世界規模で問題になっている海洋汚染。生物の海洋プラスチックごみ誤食により、海の生態系が崩れているのも深刻な

**海洋汚染により
崩れる生態系**

**世界が抱える海の問題に
取り組むべきは足元から**



状況です。コープさっぽろでは取引先企業様と19年に「SDGs推進プラットフォーム」を立ち上げ、SDGsの学習や、効果のある事業の実施などを進めてきました。その中の一つ「マイボトルエコアクション」(下記参照)の取り組みでは「まずは身近な場所から」と、21年より北海道の海や川を清掃する「海のクリーンアップ大作戦!」(海クリ)を開始。22年は6月に2日間、コープさっぽろの職員・組合員さんはじめ、多数の企業様・学校様・各自治体にもご参加をいただきました。

マイボトルエコアクション



20年に組合員さんがマイボトルを持ち歩く運動をスタート。それを推進しようと21年に「マイボトルエコアクション」を始めました。取り組みは「海のクリーンアップ大作戦!」ほか「マイボトル持参」、「ペットボトルリサイクル」があります。

● ペットボトルをリサイクルしよう



20年よりペットボトル回収機を店舗へ順次設置。現在84店舗にあります。これにペットボトルを入れると1本につき0.3円が活動団体への寄付に(寄付先は選択可能)。きれいなペットボトルを分別して「ペットボトルからペットボトルにリサイクルできる」工場へ送り、資源化を促進しています。



● マイボトルを持ち歩こう



マイボトル持参でペットボトルの使用をできるだけ減らす取り組みです。コープさっぽろではオリジナルマイボトルを販売し、購入すると1本につき10円を、活動する基金へコープさっぽろから寄付します。組合員活動では活動の主旨を広める目的で、マイボトルに貼るステッカーを配布しています。



地球の未来は 私たちの選択に かかっている

適切に回収・処分されなかったペットボトルは
国境を越え、広く世界に放出されます。
海を汚すプラスチックごみはこのままいくと
2050年には魚の量を超えるといわれています。
コープさっぽろは、ごみを出さない、
エネルギーを使わない、家計にも優しい、
そしてそれがいつのまにか社会貢献になっている。
そんな、ライフスタイルの定着を目指します。
さらに「事業でも」できることは何か?を考え続けます。



海のクリーンアップ大作戦!は全道51カ所で開催

	6月15日(水) 会場名	参加人数	ごみ袋	6月18日(土) 会場名	参加人数	ごみ袋
札幌エリア	無煙浜海岸	55	50	額泊海岸	73	110
	望来海岸	200	300	古潭海岸	106	223
	モイレ海岸	65	50	新港東4丁目海岸	2070	2034
	蘭島海岸	178	141	厚田海岸	248	62
	東小樽海岸	75	50	堀株海水浴場海岸	55	50
	ドリームビーチ	510	200	岩内港右海岸	52	50
	あそび一ち石狩	1148	150	祝津海岸	56	40
帯広エリア	晩成温泉キャンプ場	137	43			
	親子岩ふれ愛ビーチ	64	6			
函館エリア	北斗漁港の西側海岸	66	49	えびす浜海水浴場	37	37
	知内高校裏の浜	10	12	八雲漁港の南側海岸	33	41
	大森浜(啄木小公園)	80	88	七重浜海水浴場	110	84
	根崎海岸	81	112			
苫小牧エリア	シカッティ浜	221	100	苫小牧勇払海岸	391	1160
	支笏湖(モラップキャンプ場)	142	48	苫小牧勇払マリナー横	106	20
室蘭エリア	イタンキ海水浴場	137	77	有珠海水浴場	57	20
	恋人海岸	90	53	イタンキ浜	137	35
北見エリア	鱒浦海岸	47	40	海岸町	96	61
	常呂海水浴場	92	90	三里浜海岸	94	84
	サロマ湖キャンプ場	45	50			
旭川エリア	ゴールデンビーチ南	82	80	ゴールデンビーチ北	170	135
	浜中海浜公園	36	28	臼谷海水浴場	62	98
	増毛暑寒海浜キャンプ場	47	51	声問海岸	33	29
	ホワイトビーチ	32	56	サンセットビーチ	140	100
釧路エリア	東大楽毛海岸	56	70	恋問海岸	200	45
	西大楽毛海岸	30	40	薫別海岸	40	29
	落石海岸三里浜	41	40	馬主来海岸	132	75
合計		3767	2074		4605	4632

参加人数 **8372人** 回収したごみ袋 **6706袋**



6月18日 / 新港東4丁目海岸

気軽に参加できるエコ活動



子どもたちも環境問題を体感

「『海クリ』には気軽に来てください。こうした社会貢献活動は、誰もが気軽に参加できることが重要だと、参加特典にはリラクマとコラボしたトドックオリジナル軍手を用意。ごみ袋も全会場ですべて事前に準備しました。初開催の21年には2841人が参加し、「来て良かった」との感想が多数挙がりました。そこからさらに声掛けを続けて、30名以上で希望する団体には無料でバスを出し、当日は計158台が参加者を迎え、22年は参加人数が5000人以上も大幅にアップしました。当日は親子で参加する姿も多く見られ、子どもたちは夢中でごみを拾うなか、海の環境問題を自然に体感する機会となりました。」



参加された方の声

社内全体に呼びかけ、賛同者156名と参加

「この海の清掃活動に、私は21年の初開催から参加させていただいています。初回は仲間数名での参加でしたが、実際にごみの量を目の当たりにし、この活動の必要性を身を持って感じるようになりました。社に戻りこの内容を報告し、広報を通じて社内全体に参加の呼びかけを行いました。弊社は地場企業で、元々『北海道に還元したい』という文化があるため、多数の賛同が得られ22年は全道各地で、弊社から156名が参加させていただきました。今後もどさんこ企業として、また北海道に生まれ育った人間として、継続して盛り上げていきたいです!」

北海道
コカ・コーラボトリング
株式会社
おくむら ゆうた
奥村 祐太様



3年生全体で初めて参加。海洋問題の学びを深める時間に

「SDGsについて1・2年生は調べる学習が中心でしたので、3年生では参加できる活動をと、ネットで探していました。海クリは身近な地域で行われ、生徒の大きな学びにつながると思い決めました。事前に『海にはどんなごみが多いか』と予想したり『海のごみはどこから発生しているか』を調べたりして、当日は3年生145名と教員7名で参加。生徒たちは生き生きと活動し、予想以上のごみの量・種類に驚いていました。参加後は体験をもとに海洋問題の学習を深め、有意義で学び多い活動となりました。」



樽川中学校 教諭 木戸 恭子様

「日頃から節電や節水、ごみの分別は気をつけています。また私のクラスでは給食時にフードロスを出さないようルールを作って配膳しています。海クリ当日、海岸近くには流れ着いたごみが、隅には埋められた缶やペットボトルが。ごみを拾う人がいる中で、捨てている人がいることが残念でした。ごみには注射器や釣り道具もありました。海クリに参加して、私たちの地域には世界をより良くしようと考えている人がたくさんいると感じ、みんなで頑張る一体感がありました。」

樽川中学校 3年 菊池 優様

「私は海が好きなので、きれいな海にする海クリはとても楽しみでした。当日はキャンプ後のごみやプラスチックごみがたくさんあり、ひどいなと思いました。砂に埋まっているものもありました。ごみを見て、現在の海洋問題の深刻さを実感。海の生物のためにも今回のような活動を継続し、増やしていくことが必要だと思いました。海クリは自分たちができるささいなことでも海が守れるという実感がわき、世界に貢献できると実感できる活動です。」

樽川中学校 3年 米山 憂様



生ごみ処理は大量の化石燃料を必要とし回収費用は自治体の財政を圧迫 ▶▶▶



店舗での環境活動／生ごみ処理機導入

生ごみは捨てるモノという
あたりまえを変えていく

処理機に投入するだけで
ごみが消えてなくなる!?

食品を処理加工した際に発生する生ごみ。その80〜90%は水分といわれています。生ごみをそのまま焼却処分することは、もはや水を燃やすのに等しく、たくさんのエネルギーが必要となり、温室効果ガスも排出してしまいます。コープさっぽろの生ごみ排出量は年間約3500トンで、1店舗1日あたり平均100kgに相当します。処理コストは毎年約1億円。近年は惣菜や即食需要の高まりもあり、生ごみの排出量は増加傾向にあります。また、ごみを回収する自治体側にとっても、過疎化や人件費・物流費の高騰で経費負担が増し、財政を圧迫しているという現状があります。

こうした状況を踏まえてコープさっぽろは、処理コストの削減と行政負担の軽減、環境負荷低減を目的に、「ゼロ・エミッション（そもそもごみを極力排出し

ない）」を目指す取り組みの一環として、2022年6月より店舗への生ごみ処理機導入を開始しました。

採用したのは「POITO^{ポイト}」。微生物の力を借りて生ごみを分解・微細化し、水として排出する消滅型処理機で、最大の特徴は残さ物がほぼゼロであること。つまり、生ごみを堆肥化させるのではなく、生ごみそのものを消滅させるシステムです。操作は簡単で、生ごみを処理機にただ投入するだけ。投入後、約5〜24時間で生ごみが消滅し、処理後に残る水溶液はそのまま下水として廃棄できます。



店舗と製造工場に導入 処理コストを9割削減

23年6月頃までに小型店を除く84店舗とコープフーズの食品工場への導入が完了予定です。これにより、生ごみ処理にかかっていたコストの9割（ごみ処理費用全体の約3割）削減が見込まれるほか、ごみ運送時と焼却時のCO₂などの発生を抑え、環境負荷を低減できます。生ごみの投入は担当部署の職員・パート自身が行うため、ごみの分別や環境問題に対する意識向上につながることも期待できます。

今後は新しく店舗をオープンする際には開店時より「POITO」の導入を実施する予定
です。現在、「POITO」から排出される水溶液はそのまま下水処理していますが、有機物を含むことから何らかの形で有効活用ができないか調査を進めています。

これまでも店舗から排出されるごみのうち、紙類・トレー類などの多くはエコセンターで回収して再利用しており、「POITO」で生ごみの処理が進んだことで、「ゼロ・エミッション」実現に向けて一段階レベルアップしました。残る大きな課題はプラごみです。23年度はプラごみ類を内部で処理する方法についての実験を行う計画があり、「ゼロ・エミッション」に向けた取り組みをさらに一歩前進させていきます。

投入後、 約5〜24時間で生ごみが消滅

生ごみ処理の3ステップ

1.生ごみ準備

野菜くずのほか、魚の頭や骨も処理可能。ただし、トウモロコシの皮などの繊維質のもの、貝殻など分解できないごみは取り除く。



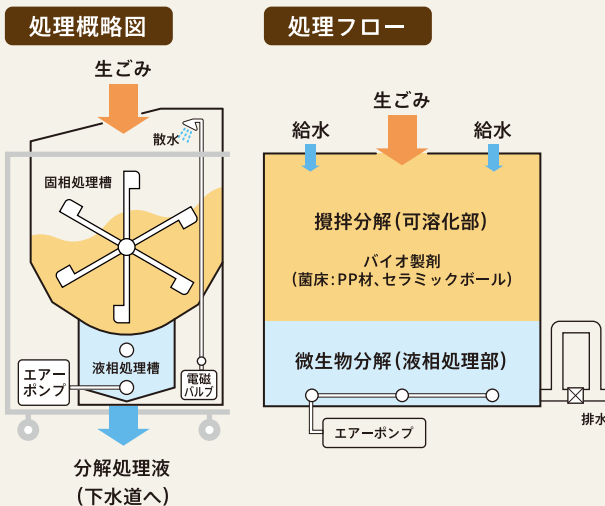
2.生ごみ投入

生ごみを処理機に投入。処理機の中ではバイオ製剤、BC材（ポリプロピレンとセラミックボール）を生ごみと一緒に攪拌。



3.分解・微粒子化

固相処理槽で分解・微細化された生ごみは液相処理槽に流れ込み、そこで再び分解・微細化。投入から5〜24時間後には生ごみは「水（水溶液）」と「炭酸ガス」に分解される。「水（水溶液）」は下水に排出され、残さ物はほぼゼロ。



生ごみ処理機導入により バックヤードも清潔に

「処理機を導入する前は、各部から出た生ごみを袋に入れて集積所に集め、毎日回収に来てもらっていました。現在は、農産・水産・デリカ・食品部から出た生ごみを各部の担当者が計量したあと、自分たちで処理機に投入しています。卵の殻やトウモロコシの皮など、分解処理できないものも一部あり、そのための分別作業に抵抗感を感じたスタッフもいましたが、実際には手間も最小限で大量の生ごみを処理できるため、負担感はそのほどありません。毎日だった生ごみ回収は週3回に減り、集積所もキレイに保たれています。」

西宮の沢店 店長
こばやし りょうすけ
小林 良輔さん



西宮の沢店に導入された「POITO」。1日処理量は100kg。野菜や魚介類、麺類、ご飯など、人間が食べられるほとんどのものは短時間で分解可能

経済的メリット

生ごみ収集コスト削減

収集所の清掃コスト削減

環境的メリット

収集トラックの稼働削減

CO₂排出量削減

空気汚染の削減

土壌汚染の削減

その他メリット

自治体のごみ回収負担軽減

はたらく人の環境意識向上

導入店舗数 **84店舗** 店内生ごみ処理量 年間 **3000トン**



コープさっぽろ 環境・社会貢献への取り組み 沿革(2008年～)

2008年洞爺湖サミット以降の環境・社会貢献への主な取り組みをご紹介します。

2008年	レジ袋有料化スタート開始、未来の森づくり基金設立、エコセンター始動
2009年	円山動物園とホッキョクグマ応援プロジェクト開始、トドックBDF(バイオディーゼル燃料)車両稼働、財団法人コープさっぽろ社会福祉基金が公益財団法人認可
2010年	独自のカーボンフットプリント表示開始、子育て支援基金創設「えほんがトドック」募集開始、トドックBDF車300台パレード『ギネス世界記録認定』、移動販売事業「おまかせ便」開始、大型木造店舗「ECO・OP」西宮の沢店開店、「コープの配食サービス」開始、全道の小学校の新入学児童にランドセルカバー寄贈開始
2011年	札幌市と安否確認協定締結、高齢者見守りの取り組み開始、東日本大震災救援募金・被災地みやぎ生協・岩手生協へ支援活動開始、くらしのひろば開始、札幌市とさっぽろまちづくりパートナー協定を締結・さっぽろ市民子育て支援運営
2012年	全労済北海道本部・北海道医療生活協同組合・福祉法人ほくろう福祉協会と地域包括ケアシステムの構築を目指し事業提携協定を締結、東日本大震災仮設住宅へ「灯油支援組合員募金」贈呈、コープさっぽろ事業所内保育園 aurinko(アウリンコ)開設、福島の子どもへ保養「北海道へ遊びに行こう!夏休み大自然北海道ツアー」実施、コープさっぽろPB「なるほど商品」販売開始、えほんわくわくキャラバン開始
2013年	大雪水資源保全センター事業開始、七飯町バイオガスプラント稼働、北海道と「包括連携協定」を締結、「産後の女性に向けた配食サービス」開始、帯広市メガソーラー稼働、コープさっぽろ全店舗「AED」設置、江別市と「災害時における救援物資管理配送に関する相互協定書」締結、コープさっぽろ「見守りトドック」サービス開始、「エコマイバッグ」販売開始
2014年	高齢者見守り協定112市町村と締結、再生可能エネルギー購入、北翔大学・NPOと介護予防で連携、トドックで古着回収事業開始
2015年	株式会社トドック電力設立、宅配配達車両にAED搭載、あんしんサポーター70歳以上訪問、第1回コープの森育樹祭、バイオマスレジ袋導入
2016年	熊本地震・北海道台風支援募金、配食専用車両導入・病院給食開始、「トドックフードバンク基金」設立
2017年	コープさっぽろ大学生育英奨学金制度導入、店舗宅配サービス3歳未満無料開始、移動販売車札幌市で運行開始、保育園白樺アウリンコ開園(江別市)、トドックエコステーション開設、第10回コープさっぽろ農業賞実施、十勝清水町農協と提携しバイオマスプラント建設
2018年	「ファーストチャイルドボックス」開始、西日本豪雨緊急支援募金、北海道胆振東部地震緊急募金、「RE100」加盟 100%再生可能エネルギー使用による事業宣言
2019年	北国の省エネ・新エネ大賞 優秀賞受賞、環境教育施設「トドックエコステーション あすもり資料室」開設、「北海道SDGs推進プラットフォーム」設立、第2子以降対象子育て支援「コープチャイルドボックス」開始、台風19号被害緊急支援募金、ペットボトル回収機導入開始
2020年	ペットボトル小型減容回収機設置、株式会社エネコープ「新エネ大賞 新エネルギー財団会長賞」受賞、「トドックでんきサポート」開始、2020年7月豪雨災害支援募金、移動販売車JA幕別町との連携協定、各種レジ袋有料化
2021年	トドック電力「再生可能エネルギー100%メニュー」がグリーンエネルギー自動車の導入補助金要件に認定、「マイボトルエコアクション」開始、「スクールランチ」開始、「Hokkaido海のクリーンアップ大作戦!」開始、「EVTトラック」による宅配トドック配達実証開始、全店舗再生可能エネルギー電力導入
2022年	「魚函アップサイクル」開始、生ごみ処理機店舗導入開始、ウクライナ緊急募金

店舗の電力使用で発生する温室効果ガスを削減したい▶▶▶

「再生可能エネルギー100%」の電力へ

私たちが事業活動で消費する電力を再生可能エネルギーに切り替えることは、未来への責任です。コープさっぽろは2018年にRE100に加盟し、「2040年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにする」という目標を掲げました。目標の達成に向けて2021年12月から店舗で使用する電気を「再生可能エネルギー100%」由来の電力に順次切り替えています。2022年度時点で、事業全体の使用電力の79%が再生可能エネルギーに切り替わりました(電気使用量1億2988万8000kwh)。これをCO₂排出量に換算すると年間4万8318トンの削減に当たり、一般家庭1万1342世帯分に相当します。



導入店舗数 **100店舗** CO₂年間削減量 **4万8318トン**

プラスチック燃焼時に発生する温室効果ガスを削減したい▶▶▶

壊れた魚函を買い物かごに



北海道ぎょれんとコープさっぽろは、2022年7月に買い物かごを共同開発しました。原料は、漁業者が船内や市場で鮮魚を運ぶときに使うプラスチック製の魚函です。破損した魚函は毎年約1万個が廃棄処分されています。今回、その一部をぎょれんが回収して買い物かごに作り替えて再利用することで、プラスチックごみ削減につながります。第一弾として買い物かご3000個を生産し、コープさっぽろ全店で組合員さんの「マイかご」用に1個440円で販売しました。今後も漁業用プラスチック製品のアップサイクルでの連携を強化・継続し、北海道におけるSDGs推進を図ります。



3000個販売



脱炭素社会の実現に向けた店舗の取り組み



大学と生協が 北海道のために できること

大学の社会貢献度をSDGsの枠組みで評価する「THEインパクトランキング2022」で世界トップ10入りを果たした北海道大学。事業を通してSDGsに取り組み、コープさっぽろ。課題先進地域といわれる北海道のためにそれぞれができるのか。持続可能な地域社会の実現をテーマに対談を行いました。



コープさっぽろ理事長
おおみ ひでまさ
大見 英明



北海道大学総長
いわた きよひろ
寶金 清博

SDGsの言葉が 生まれる前から

大見 寶金先生、本日はよろしくお願ひします。さっそくですが、北大は「THEインパクトランキング2022」で世界10位・国内1位という評価を得ました。トップ10入りは日本初の快挙だと聞いています。国内大学の中でも北大はSDGsをリードする立場ですが、そもそもどうして大学がSDGsに取り組んでいるのでしょうか。

寶金 SDGsは世界共通の目標であり、世界の多くの組織がこのテーマを目標に組み込んでいます。本学は2022年度からの第4期中期目標・中期計画において「比類なき大学として、SDGsの達成に貢献すること」を明確にうたいました。中期目標は、いわば国との約束です。やはり言葉だからといって軽々しくうたうわけにはいきません。目標達成に向けて2021年8月に私自身をトップとしたサステイナビリティ推進機構を設置しました。この機構がプラットフォームとなり、持続可能な社会の

設立の原点から SDGs的だった

構築に役立つ教育、研究、社会連携の推進、あるいは美しいキャンパスや広大な研究林など、大学が持つ物的・知的資産を活用したグリーン・スマート・サステイナブルキャンパスの実現を目指しています。さかのぼれば本学は、1996年に国立大学で初めてキャンパスマスタープランを策定し、2005年には「持続可能な開発」国際戦略本部を設置しました。さらに2008年には本学が副議長大学を務めたG8大学サミットにおいて札幌サステイナビリティ宣言を採択。2014年に「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と題した近未来戦略150を掲げました。



本学がSDGsに積極的に取り組んできたのは、設立の経緯が関係していると考えています。北海道大学の前身である札幌農学校は1876年に国から土地を与えられる形で開校しました。これは、ランドグラント・カレッジと呼ばれるアメリカではよくある方式で、日本の大学では極めて珍しいケースです。公有地を財産として与えられ大学運営を行うことになった私たちの先人は、土地を切り拓いて教育・研究施設を建てる一方で、恵まれたキャンパス環境を保全する意識を同時に持ち合わせていた

のではないかと私は推測します。つまり教育・研究と環境保全をどう調和させるかというテーマを深く考え続けてきたことが、今につながっていると考えています。
大見 北大が発時点から長きにわたって環境を意識した大学運営を行ってきたことは興味深いですね。私たち協同組合組織は1844年にイギリス・マンチェスター郊外のロッヂ・デールで誕生しました。産業革命の後、弱い立場につけ込まれ日々の食料購入にも苦労していた労働者が「せめて自分たちの食べるものは自分たちで調達しよう」と1ポンドずつ出し合って組織されたのが始まりです。COOPには、社会構造の変化によって生じる生活課題に対して、修正を加えながら自主自律で解決に取り組むマインドが原点にあります。そうした文脈の中でコープさっぽろもまた、世界と地域で起こっている問題に対してなんらかの形で主体的に参加して解決を目指すことがミッションであるところとらえています。



寶金 清博さん

1954年生まれ、札幌市出身。1979年北海道大学医学部卒、医学博士。1986年11月より2年2カ月、米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員。その後、脳神経外科医として北海道大学病院・民間病院に勤務。2013年北海道大学病院長に就任。2017年4月より同副学長、2020年10月より現職。

デンの科学者チームがプラネタリー・バウンダリー（地球の限界）という概念を公表し、SDGs発足の科学的根拠となりましたが、それよりずっと前の19世紀半ばに、地域で自律し、必要なものを必要だけ供給するという考えのもとでCOOPが誕生していたというのは衝撃的です。マルクスがエンゲルスに宛てた手紙の中で、資本主義の最大の欠点は何を書いているかが、それを変えようという精神をCOOPが持っているという先見性の高さに驚きました。

歯止め対策だけでは
限界がきている

寶金 SDGsの達成にあたって大事なのは、いかにそれを「見える化」するかだと思っんです。たとえば本学では新入生へのSDGs教育としてシラバス（授業計画）を見直し、全学教育科目のSDGs対照表を作成して各講義がどの目標と関連しているのかを「見える化」しました。新しい取り組みを始めることも大切ですが、まずは今までやってきたことをSDGsの枠組みに照らし合わせて整理し、教育・研究を再構成することから着手しています。



たとえ人口が減っても
住み続けられるまちに

大見 北海道は課題先進地域といわれています。少子高齢化、過疎化の問題も待ったなしです。そうした中、今後も地域で暮らし続けるための前提条件をどう維持していくか。私たちは買い物困難者対策として移動販売車を始め、料理が作れないお年寄りのために配食事業を立ち上げました。物流ネットワークを強化し、宅配トドックは大型スーパーと大型ドラッグストアを足した規模の品ぞろえを確保しています。私たちは、北海道のどこに住んでいても、食を維持し、暮らし続けられる環境づくり

に努めてきました。ですが、こうした歯止め対策だけでは限界があります。ここからは産業振興にも力を注いでいかなければならない。北海道は言わずと知れた国内最大の食料基地です。ところが北海道で生産したものの多くは原料のまま本州へ運ばれ、本州で加工されています。北海道の産業構造をもう一段、高度化するために食品加工に力を入れる必要があると考えています。道内各地にはさまざまな規模の食品加工工場がありますが、売先がなければモノはつくれません。そうしたときに私たちが商品提案を通して道内での販売はもちろん、全国の生協グループにつなぎ、販路拡大を後押しすることができないではないか。工場が活性化すれば地域に雇用も生まれます。地域の素材生産と加工、雇用をどうクロスマッチングさせるかというのは、これからのテーマになると考えています。

大見 2022年末に組合員が196万人を超えました。北海道の総世帯数は279万世帯（2020年1月現在）ですから、1世帯に1名が加入したと仮定して、組織率は70%を超えます。それを踏まえても、北海道の問題に対し事業を通して解決を図ることは必然だと考えています。



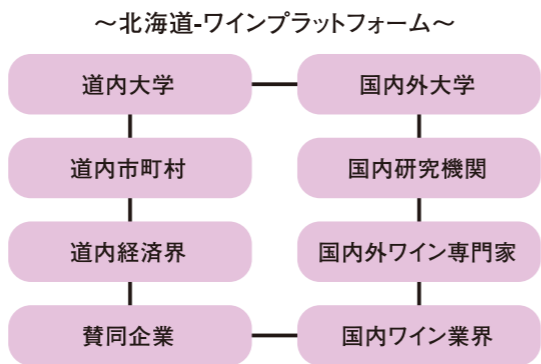
ると、北海道開拓使時代に政府主導でどう酒醸造を試みたことがありました。ですが、寒冷地でのぶどう栽培は困難を極め、一度は断念したという苦い経験があります。二つ目はワイン産業のすそ野の広さです。ぶどうを栽培する農業やワインを醸造する製造業だけではなく、観光をはじめさまざまな業種への波及効果が期待できます。

良い例がアメリカのナパバレーです。オーパス・ワンに代表されるようにナパは今や世界でも一流のワイン産地として知られ、ワイン産業が地元にもたらす経済効果は年間130億ドル（約1兆8000億円）

といわれています。ところがナパバレーはかつてそれほど名の通った産地ではありませんでした。なぜ、欧州のハイエンドにキャッチアップできたのか？その背景にはカリフォルニア大学が明確に関わっています。ワイン生産者とカリフォルニア大学デービス校が手を組み、ぶどうの栽培技術や醸造方法、土壌などを徹底的に研究した結果、世界に名だたるワインが想像以上に短期間で生まれました。私たちはナパを上回るような成功例を北海道で作りたい。北海道を世界有数のワインバレーにしたい。そのためコープさっぽろをはじめとする企業のご支援により2021年4月に寄附講座「北海道ワインのニューウェルヴァーグ研究室」を開設し、2022年4月には産学官金連携によるワイン産業支援組織「北海道ワインプラットフォーム」を立ち上げました。ワインプラットフォームでは栽培・醸造技術の支援のみならず、人材育成、経営相談、マーケティングまでワンストップで生産者をサポートしています。

大見 コープさっぽろは道内54ワイナリーの内、40近いワイナリーと契約があり、北海道産のワインを道内で最も多く販売しています。ワイナリーは今後も増え続け、数年後には70軒を超えるといわれていますが、新しくワイナリーを始めるときの一つの販路として、われわれがお手伝いできるものと考えています。

寶金 とても心強いですね。ポルドーやナパに追いつくことは簡単ではありません。でも、良い気候と良い販売ルートがあれば、それを支える学術があれば、可能性はあると信じています。現在、1901年竣工の旧昆虫学及養蚕学教室を改築して、北海道ワイン教育研究センター棟を整備しています。SDGsの象徴ともいえる施設で、農学、環境科学、教育学などの幅広い研究者が集います。研究・分析や生産者からの相談機能のほか、道産ワインを貯蔵できる標本庫や道産ワインが楽しめるカフェを備え、道産ワインのプロモーション機能も果たします。北海道ワインバレーの一つの顔となるでしょう。



～北海道-ワインプラットフォーム～

- 参画機関
- 北海道大学(北海道ワイン教育研究センター)
 - 北海道
 - 北海道立総合研究機構
 - 北海道農業研究センター
 - 道産ワイン懇談会
 - 北海道農業公社
 - 北海道貿易物産振興会
 - 国内外大学
 - 国内研究機関
 - 国内外ワイン専門家
 - 国内ワイン業界
 - 北海道中小企業総合支援センター
 - 北海道信用保証協会
 - 北海道経済連合会
 - 北洋銀行
 - GB産業化設計
 - ワインクラスター北海道

や企業と連携したプロジェクトをますます強化する計画です。社会に展開する大学として、大きな転換点にきていると考えています。

大見 とても共感できます。私たちが北海道の地域課題解決のために連携力を強化し、「つなぐ」役割をいっそう果たしていけたらと思います。北大と一緒にできることがあれば、どんどんチャレンジしていきたいですね。本日はありがとうございました。



大見 とても楽しみです。ワイナ

ンは観光振興への横展開が期待できます。海外からの観光客にとっても魅力的なコンテンツになりそうです。最後に、ワイン支援を含め、北大のこれからのについてお話しただけです。

寶金 北海道大学はこの春、新たに「HUVISION2030」を策定します。そこでは「社会と歩む卓越」という言葉を用い、「卓越した世界的研究」と「地域産業振興や地域課題解決への貢献」の両立をうたっています。現在も岩見沢や函館でプロジェクトが稼働していますが、道内の自治体

ナパを上回る成功例を
北海道で実現したい

コープトラベル(旅行業)

年商 **10億円** 店舗数**5店舗**
(札幌2・苫小牧1・旭川1・函館1店舗)

コープさっぽろ 大学生育英奨学金(給付型)

100万円／4年を給付。
累計受給者数 **1338人**
支援総額 **3億3450万円**

コープトレーディング(貿易)

イタリア生協からの輸入など

夕食宅配サービス

週間利用人数 **8000人**
年間提供食数 **197万食** 配食車両台数 **196台**

スクールランチ

実施市町村数 **3市町村**
(様似町・愛別町・初山別村)
昼食配膳累計数 **11万7281食**
(21年9月～23年3月)
※現在1日 約500食提供

高校生チャレンジグルメコンテスト

地元食材で開発したレシピで競う。
累計参加市町村 **34市町村**
参加学校数のべ **84校**

アニマドレ(食農教育プログラム)

札幌市立高校 **5校32人**参加
北海道の農と食を通じてキャリア探究を行う
札幌市立高校学校間連携プログラム
(単位認定)

組合員数 (組合員組織率70.4%) ※北海道世帯数 280万世帯	196万8441人
出資金額	873億円
総事業高	3140億円
店舗事業高	1912億円
宅配事業高	1119億円
共済事業	22億円
その他	87億円
経常剰余	44億円
職員数	1万5526人
※障がい者雇用	7.0%(701人)
※海外技能実習生	217人

2023年3月20日現在

高齢者見守りサービス

174市町村締結(道内全179市町村中)
2022年度見守り件数 **166件**

文化教室・貸し教室・文化鑑賞会

文化教室 **19教室**／キッチンスタジオ **4カ所**
貸し教室 **40カ所**／文化鑑賞会会員 **740人**
事業高 **4億円**
定期講座受講者数 **7484人**

店舗

108店舗
事業高 **1912億1000万円**

移動販売車 「おまかせ便カケル」

135市町村
59店舗95台
での運行

宅配トドック

46万世帯
物流センター **51拠点**
事業高 **1119億円**
宅配車両台数 **1300台**

北海道ロジサービス(株) (物流業)

トラック車両台数 **600台**

食べる・たいせつ フェスティバル

食育イベント
2022年参加人数 **1万5742人**
累計参加人数 **29万8175人**

農業賞

消費者の立場で真摯に取り組む生産者さんを知り応援する賞。2022年度は歴代受賞者の方々が取り組みなどの報告と交流を行う交流会を実施。
累計応募総数 **1244件**
累計受賞団体数 **204団体**

認知症予防

認知症の理解と予防のキャラバン
9自治体 **345人**参加／年

地域まるごと 元気アッププログラム

高齢者向け認知症予防プログラム
登録者 **1460名**
参加者のべ **4万4800人**／年

人と人をつなぐ事業

つながり形成 & 生活協同組合

組合員活動 文化 教室 福祉活動
家族葬 旅行

人と食をつなぐ事業

食のプロデュース能力

店舗 移動販売
食育 製造 宅配・配食

人と未来をつなぐ事業

ソーシャルビジネス開発能力

共済 エネルギー 子育て支援
リサイクル 環境活動

生産工場

事業高 **206億円**
・コープさっぽろ生鮮PC(畜産、水産)
・コープフーズ(株)
(石狩、江別、配食 **5工場**、社会給食)
・(株)ドリームファクトリー(惣菜、畜産PC)
・(株)札幌駅立売商会(弁売亭)
・北海道はまなす食品(株)(納豆)
・(株)大雪水資源保全センター(水)
・さくら食品(株)(アイスクリーム)

畑でレストラン

生産者とシェフと組合員さんをつなぐ
1日限定レストラン。7,500円／名
累計開催数 **238回**
累計参加者数 **8255人**

ちょこっと (食のフリーペーパー)

毎月21日発行
60万部／月

ウクライナ支援

2021年度 **220万4478円**
2022年度 **1億6350万8439円**
累計募金
1億6571万2917円

コープの家族葬

全道 **27式場**
2022年度
事業高 **3億2860万円**
葬儀件数累計 **1865件**

海のクリーンアップ大作戦!

2022年参加人数 **8372人**
回収ゴミ袋数 **6706袋**

エネコープ(エネルギー事業)

事業高 **122億8000万円**
営業所 **14拠点**
メガソーラー施設 **2カ所**(帯広)

トドック電力

事業高 **127億8000万円**

連携

・JAみねのぶ
・魚長(18店舗)
・ココワ(北竜町)
・妹背牛町

トドックフードバンク

提供量 **7457万1440円**／年
児童養護施設 **22カ所**
児童自立支援施設 **1カ所**
北海道ファミリーホーム協議会(27ホーム)、
天塩町、恵庭市、さっぽろ青少年女性活動協会

トドックフードキャラバン

児童養護施設へ、調理方法を伝えるキャラバン
2016年スタート
累計 **56回**実施
のべ **732人**参加

SDGs プラットフォーム

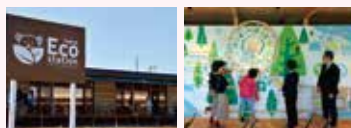
北海道の環境、貧困問題など支援を
後押しする産学官協議会
(事務局:コープさっぽろ)
SDGs研究会 **年2回**開催

エコセンター(江別)

総事業高 **5億7200万円**
3億7972万トン／年間回収量
古着 **1295トン**／年間
ペットボトル回収約 **350万本**／年

トドックエコステーション (環境学習の拠点)

見学者数 **1345人**
うち17校801人が小・中学生



再エネ100%推進

2040年までに再生可能エネルギーで
事業推進日本で **13番目**に登録

再生可能エネルギー導入 **100店舗**
CO₂年間排出削減量
約 **4万8318t** **RE 100**
(2022年実績)

大学連携

・関西大学
・小樽商科大学
・酪農学園大学
・市立旭川大学
・市立旭川短期大学
・室蘭工業大学
・北海道文科大学
・函館短期大学
・札幌大学
・北海道大学
・北海学園大学

コープさっぽろ事業 MAP

コープさっぽろは多岐にわたる分野で
課題解決へと「つなぐ」事業を実施して
います。主な事業とその規模を一覧
でご紹介します。

えほんがトドック(絵本配布)

2010年開始から
11万8817世帯へ配布
(累計 **53万3405冊**)
※えほんわくわくキャラバン
幼稚園、保育園
2012年開始 累計 **1097園**訪問

トドックステーション

宅配センター内のコミュニティスペース
全道 **26カ所**(うち店舗5カ所)
1万5341人利用／年

ファーストチャイルドボックス

育児支援パッケージ無償配布
2018年4月開始
2022年度は
7215人へお届け
(北海道年間第1子出産者の **53%**)

コープチャイルドボックス

2019年10月開始
2022年度は **6058人**

コープ未来の森づくり基金

植樹 **4702本**／年間
2008年からの累積本数は
11万9054本

共済

加入件数 **63万件**
事業高 **22億円**



高齢者の社会的孤立による生活不安解消 ▶▶

高齢者見守り 市町村と協定締結

宅配トドックと夕食宅配サービスは、定期的に組合員さん宅を訪問することで、高齢の方などの見守りの役割を担っています。緊急時に必要な支援をスムーズに行えるよう2010年より各市町村と「高齢者見守り協定」を締結。現在は全道174市町村と包括連携をしています。また、宅配トドックでは、走行時に緊急対応できるよう582台のAED搭載車両が運行しています。2022年度は166件(宅配38・夕食宅配128)の緊急対応を行いました。2010年からの累計対応件数は1477件に上ります。



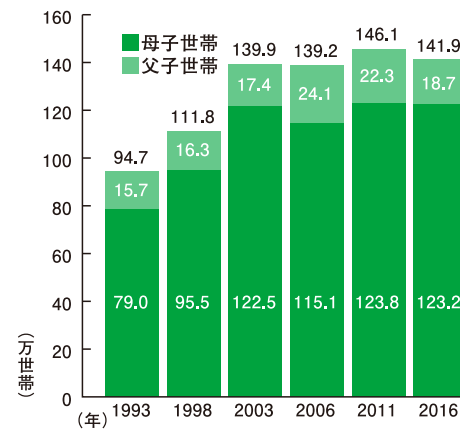
ウクライナの子どもたちを支援したい ▶▶

支援総額1億円超 ウクライナ緊急募金

ロシアのウクライナ軍事侵攻により、国外避難を余儀なくされたり、教育機会が奪われるなど、720万人の子どもたちが人道支援を必要としています(日本ユニセフ協会HPより)。コープさっぽろは2022年3月11日～4月20日の間、ウクライナの子どもたちへの支援を目的に全店舗と宅配トドックで緊急募金を呼び掛けました。募金総額は1億6571万2917円となり、この間の募金の取り組みの中では記録的な募金額となりました。北海道ユニセフ協会を通じ、ウクライナの子どもたちへの支援活動に活用されます。



■母子世帯数及び父子世帯数の推移



(備考)1.2011年以前は、厚生労働省「全国母子世帯等調査」、2016年は厚生労働省「全国ひとり親世帯等調査」より作成。2.各年11月1日現在。3.母子(父子)世帯は、父(または母)のいない児童(満20歳未満の子どもであって未婚のもの)がその母(または父)によって養育されている世帯。母子または父子以外の同居者がいる世帯を含む。4.2011年値は岩手県、宮城県及び福島県を除く。2016年値は熊本県を除く。出展/男女共同参画局HPより作成

33年間で支援した奨学生累計採用数
(23年3月20日現在)

1512名

経済的に困窮するひとり親家庭の教育 ▶▶

ひとり親家庭の高校生への 育英奨学金事業

日本に暮らすひとり親家庭のおよそ半数が貧困状態におかれています。経済的な困窮で十分な教育を受けられず、進学や就職のチャンスに恵まれなければ、貧困の連鎖が生じてしまいます。公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金は1989年に発足し、30年以上にわたってひとり親家庭の高校生に対する育英奨学金事業を継続してきました。経済的に就学困難なひとり親家庭の高校生・高専生と特別支援高等部生を対象に、返済不要の奨学金月額1万円を卒業までの3年間給付しています。従来は毎年70名前後の奨学生を公募していましたが、コロナ禍を受けて2022年度は全道で230名を公募しました。



子どもたちの食の独り立ちを応援 ▶▶

食をつくる喜び伝える トドックフードキャラバン

何らかの問題を抱えて児童養護施設にいる子どもたちは「料理をつくる」ことには限られています。それにもかかわらず高校を卒業すれば退所して独り立ちをしなければなりません。そこで、トドックフードバンクでつながりのある児童養護施設の子どもたちを対象に食育プログラムを実施。コープさっぽろ職員で子どもごはん研究家の能戸英里が、調理の基本や食の楽しさを伝えています。2016年にスタートし、2022年までにのべ56回、732人が参加しました。



生物多様性を学ぶ場の危機 ▶▶

ホッキョクグマ 応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症拡大による休園を繰り返し、来園者数が大幅に減少した道内の動物園。子どもたちの豊かな心を育み、環境について学ぶ機会を与える貴重な場の存続が危ぶまれています。元々コープさっぽろでは「生物多様性」を学ぶ拠点である動物園に対して、2009年より「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を実施。22年も継続して札幌市円山動物園、旭川市旭山動物園、おびひろ動物園、釧路市動物園を支援しました。2022年度の寄付金は800万円(各園へ200万円寄付)です。



学費高騰が少子化・人口減の原因に!? ▶▶

新入職員の奨学金返済を補助 職員奨学金返済支援制度

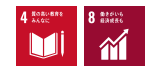
大学を卒業したとたん数百万円の借金を背負って社会に出る…。これが貸与型奨学金の現実です。新入職員の負担を軽減し、安心して働ける環境にしたい。こうした思いから奨学金返済支援制度を導入しました。大学・大学院を卒業した新卒入協者を対象に、奨学金返済月額の半分を入協3年目までコープが負担します。月の自己負担額の上限を1万円とし、超過分は全額支給するなど、返済に追われずに働ける制度です。2019年度の制度開始から2022年度までの4年間で、累計109名の職員が利用しています。



学費高騰が少子化・人口減の原因に!? ▶▶

4年間で100万円給付 大学生育英奨学金

学費の高騰や家計収入の減少により、今では大学生の2人に1人が奨学金を利用しています。しかし、不安定雇用や低賃金労働の拡大により、卒業後「返したくても返せない」人が増えています。この状況が続けば、少子化・人口減を加速しかねません。コープさっぽろは2017年度に「大学生育英奨学金」制度を創設しました。コープで働く大学生に、返済不要の奨学金を年間25万円、最長4年間で100万円給付。22年度までに累計1338名(支援総額3億3450万円)が利用しています。





食育・環境・暮らしの関心を高める

食育・環境・暮らしの関心を高める。食育・環境・暮らしの関心を高める。食育・環境・暮らしの関心を高める。

道内8地区で3年ぶり
予約制のリアル開催

食育・環境・暮らしの
関心を高める

食べる・たいせつフェスティバル2022

2022年度 人と食 活動報告

全道8会場では日頃から道民にもなじみの深いメーカー様が、さまざまな体験ブースを設置。子どもたちがクイズや料理などに楽しく取り組みうちに、食や環境・暮らしにまつわることを学びます。またコープさっぽろの「おしごと体験」には、店舗のレジ打ち体験や、宅配トロックの宅配体験などがあります。本物のトラックに乗った際には、交通安全も指導します。また、キッズブースを新設し、ハイハイやよちよち歩きのあかちゃん、未就学のお子さんを連れてご家族もより楽しめるようになりました。

子どもたちが楽しめる
体験型をメインに



のトラックに乗った際には、交通安全も指導します。また、キッズブースを新設し、ハイハイやよちよち歩きのあかちゃん、未就学のお子さんを連れてご家族もより楽しめるようになりました。

■22年開催 計1万5742名参加

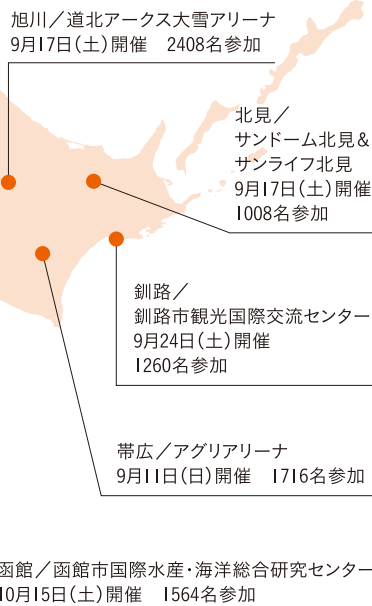
札幌／札幌市スポーツ交流施設
コミュニティドーム(愛称:つどーむ)
8月27日(土)開催 5144名参加

苫小牧／学校法人 京都育英館北洋大学
10月15日(土)開催 1508名参加

室蘭／日本工学院北海道専門学校 登別キャンパス
9月24日(土)開催 1134名参加

フェスティバル累計参加人数
(2007年～2022年)

29万8175人



最期の見送りにも安心を

全道へ拡大中 コープの家族葬

「お葬式にも生協の安心を」と、スタッフの迅速な対応かつ適正な価格にご好評をいただいている「コープの家族葬」プラン。札幌市内の直営式場2ホールはもちろん、「家族葬のウィズハウス」(運営(株)めもホールディングス)との業務提携により、札幌市、恵庭市、旭川市、千歳市、苫小牧市、函館市ほか道内各地の全27式場でプランをご利用いただけます。さらに携帯式場・新式場オープンが進められており、エリアは順次拡大中。式場見学も随時行っています。(22年度の施行実績 / 1865件)



「頼れる人がいない」高齢者の力に

コープのお手伝い こまるとコープ

年々、宅配トロックや移動販売の現場で、高齢の組合員さんから「電球を交換してほしい」などの「ちょっとしたお願い」が増えていました。日常生活で頼れる人がいない上に、困っていても「詐欺に遭いそうで怖い」と業者選びに不安を抱く高齢者が多い現実があります。そこで2021年6月に「こまるとコープ」を試験的に立ち上げ、南区の石山・藤野地区限定でお手伝いサービスをスタート。現在は札幌市内全域に対応地区を広げ、草刈り・樹木伐採、室内清掃、PC・スマホ対応など、さまざまなお困りごとに対応しています。



雇用のバリアフリー化促進

長く働ける環境を構築 障がい者雇用

2020年にコープさっぽろを母体として設立した就労継続支援A型「株式会社コープ・パートナーズ」は、障がい者の一般就労を目指して訓練や育成を行い、長く働ける環境の構築を目的としています。コープさっぽろグループ全体の障がい者雇用人数は23年3月20日現在で701名(雇用率7.04%)におよび、ほぼすべての事業所で働いています。また外国人技能実習生の受入れや、優秀な人材確保のための秋採用、欧米流ジョブ型採用でエンジニアを採用するなどダイバーシティの取り組みも推進しています。



高齢者の体力・認知機能の低下を防ぐ

高齢者向け “まる元”運動教室

地域まるごと元気アッププログラム＝「まる元」は北海道の高齢者が元気で過ごせるようにと、NPOソーシャルビジネス推進センターとコープさっぽろ、北翔大学が協力し、自治体のご協力のもと行っている運動教室です。指導者全員が健康運動指導士の資格をもつ専門家、高齢者にケガや事故がないよう十分な配慮をしています。教室は年間48回開催しており、指導者の目が行き届くよう25人までの小クラス制。2010年に開始して現在28市町村・年間のべ約4万4800名にご参加いただいています。





買い物困難者は道内に45万人 ▶▶▶

移動販売車 おまかせ便カケル

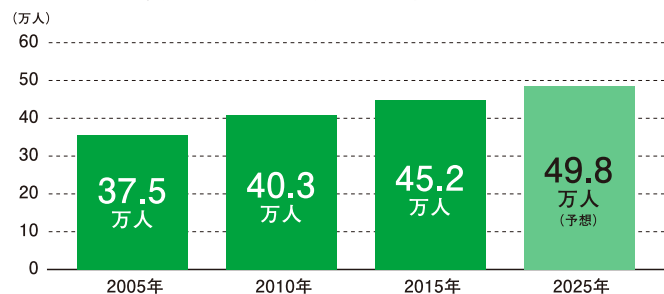
北海道には現在、買い物に不便を抱えている人が45万人いるといわれています。コープさっぽろは、買い物の楽しさと便利さをお届けしたいという思いから、2010年に移動販売車「おまかせ便カケル」をスタートしました。小さなお店に匹敵する約1,000品目の商品を載せた専用トラックが、毎週決まった曜日・決まった時間帯に巡回しています。23年3月20日現在、専用トラック95台が稼働し、道内135市町村・300コース・1万2000世帯の方にご利用いただいています。また、2022年10月には道内初の試みとして胆振・日高エリア（一部）を走行する車両に苫小牧信金のATMが搭載されました。



運行市町村・ご利用世帯数
(23年3月20日現在)

135市町村 1万2000世帯

■北海道内の食料品アクセス困難人口の推計



※参考:北海道経済連合会
「買い物困難者への取り組みにおける 道内の現状と今後の在り方」



高齢者の食事を支援し見守りを行う ▶▶▶

夕食宅配サービス 年間197万食

月曜から土曜まで日替わりの夕食をお届けする夕食宅配サービスは、「買い物に難しい」「食事が作れない」高齢者の〈食のライフライン〉を支えることを目的に、2010年にスタートしました。「離れて暮らす親の食事が心配」という理由から家族が申込みパターンも増えていて、現在週間利用者数は8000人で、年間197万食を供給しています。献立はコープフーズの管理栄養士が監修。冷凍ではない本格的な食事を1食578円～(税抜。松・竹・梅コース)で提供しています。



道内どこでも2万アイテムが届く ▶▶▶

宅配トドック 利用者46万世帯

コープさっぽろ宅配システムトドックは、〈週に1度〉〈決まった曜日〉〈決まった時間〉に組合員さんのお宅へ商品をお届けします。取り扱い商品は2万アイテム以上。これは大型スーパーと大型ドラッグストアを足した品ぞろえの規模です。つまり北海道のどこに住んでいても、買い物を楽しめるということ。同じ担当者が定期的に訪問するから、ご高齢世帯の「見守り」の役割を担うことができます。「置き配」にも対応するので一人暮らしの利用者も増えています。2023年3月現在、46万世帯の方にご利用いただいています。



そうえん店 / 札幌市中央区北10条西23丁目1-1



安全・安心な暮らしを支える ▶▶▶

108店舗目 そうえん店オープン

2022年10月13日、コープさっぽろでは108店舗目となる「そうえん店」がオープンしました。生ごみ処理機(8ページ参照)導入のほか、リユースボトルへの給水が可能な純水炭酸水自動販売機を北海道初導入。環境にも配慮した店舗を目指します。売り場では生鮮素材を活用した商品やデリカコーナーを中心に、すぐ食べられる商品の充実を図り、新商品も多数取り揃えています。おひとり様向けに少量の「バナナの量り売り」や「卵のバラ売りコーナー」も新設し、またコープの店舗では最大規模の「冷凍食品コーナー」も展開。常に、時代のニーズにあわせた店舗作りを目指しています。

そうえん店での新規組合員加入数
(23年3月20日現在)

2644名



物流業界の労働環境悪化対策 ▶▶▶

北海道ロジサービス ロジスティクス大賞受賞

コープさっぽろ関連会社・北海道ロジサービス株式会社と、株式会社TSUNAGUTEは日本ロジスティクスシステム協会主催の「2022年度ロジスティクス大賞」で「ロジスティクス大賞」を受賞。コープさっぽろに納品する加工食品、飲料、菓子メーカー約400社、卸商8社、道内輸送事業者約20社を対象に、各社の物流情報をクラウド型共通システムに活用することで納品伝票の統一、電子受領と製・配・販・輸送の関係者への情報連携、可視化を非常に大きな規模で実現したことを高く評価されました。



子育て家庭・シニア応援 ▶▶▶

ちびっこコープデー / ゴーゴーコープデー

子育て中の方とシニアの方が、店舗で利用できるお得なサービスデーが好評です。子育て家庭を応援する「ちびっこコープデー」は、中学3年生までの(または20歳までの障がいがある)お子さまをお持ちの方が火曜日に買い物をする5%OFF。またシニア世代を応援する「ゴーゴーコープデー」は、55歳以上の方が木曜日にレジで組合員証を提示すると5%OFF。どちらも登録人数を伸ばし、ちびっこコープデーはのべ17万443名(2023年3月20日時点)、ゴーゴーコープデーはのべ53万1891名(2023年3月20日時点)にご利用いただいています。



安全・安心な暮らしを支える ▶▶▶

プライベートブランド なるほど商品

単なる安価なPB(プライベートブランド)商品とは一線を画(かく)す「なるほど商品」。安全・安心な商品の提供にこだわり続けているコープさっぽろが、シンプルと良質、そしてできるかぎり北海道製造にこだわって作ったものばかり。各商品の長をストレートに込めた長い商品名は、読むだけで「なるほど!この商品はここが良いのか!」と伝わります。また通常は小さく裏に置かれる栄養成分表示を目立つ位置に大きく配置しているのも、成分を知りたいという消費者の視点に立った配慮。組合員さんが安心して手に取れるPB商品は、次々に新商品を開発中です。



栄養成分 1食(160g)当たり		
エネルギー	たんぱく質	脂質
198kcal *9.0%	4.2g 5.2%	12.6g 20.3%
炭水化物	食塩相当量	カーボンフットプリント
17.4g 5.4%	1.8g 24.4%	2372g CO ₂ e

見やすい
栄養成分表示

なるほど商品アイテム数
(2023年2月現在) **182点**



安全・安心な食を支える ▶▶▶

〈新発売〉北海道の大豆 深煎りの旨味きなこねじり

なるほど商品には元々、坂口製粉さんに作っていただいている北海道産大豆を使ったこだわりの「香ばしい深煎りのきな粉」があります。そのきな粉を使って、札幌第一製菓さんと連携して2022年4月、きなこねじりを新発売。北海道産砂糖を使用したほんのり甘くて素朴な味わいは、そのまま食べてもよし、レンジで温めるとまるで出来たてのおいしさに。チャック付きなので保存や持ち歩きにも便利で、食物繊維や大豆イソフラボンといった、体にうれしい栄養が気軽に取れる逸品です。(3万482個販売/23年3月時点)



安全・安心な食を支える ▶▶▶

〈新発売〉北海道産 別海牛乳アイス(コーヒー)

別海町の牧場で、飼料米を食べて育つ乳牛から搾った「別海牛乳」が主原料の、なるほど商品人気のアイス。従来のバニラ・チョコ味に加えて2022年6月、コーヒー味を新発売しました。コーヒー豆はスペシャルティコーヒー専門店「丸山珈琲」の自家焙煎豆を使用。その風味を最大限引き出せるよう、コーヒーエキスは工場内で抽出し、さらに砕いた豆そのものを混ぜ込むことにこだわりました。口中に広がるコーヒーの風味が好評で、発売以来23年2月の約8カ月間で2万1282個を販売しています。



北海道の美しい農業景観を眺めながら料理を満喫



キッチンカーやテントを使って現地で調理



料理提供だけでなくファームツアーも実施

生産者を応援!
地域を食で元気に ▶▶▶

畑でレストラン/ ぶどう畑でレストラン

コープさっぽろ農業賞の受賞生産者と有名シェフがタッグを組み、畑を会場に1日限りのレストランを開く「畑でレストラン」。(北海道のおいしい食文化の創造)を目指して2010年度にスタートし、実施回数は2022年度までに238回を数えます。市町村との連携企画も好評で、2022年度は空知振興局や平取町とのコラボが実現しました。また、コロナ禍で落ち込む観光需要を盛り上げるため、道内ワイナリーをめぐり道産ワインと旬の食材を楽しむツアー「ぶどう畑でレストラン」を星野リゾートと共同で初めて実施。1泊2日で①十勝・富良野、②後志のワイナリーを訪れる2つのコースを販売しました。



累計参加人数(238回開催)
(2010年度~2022年度、スピノフ企画含む)

8255人



食の大切さを伝える食育プログラム ▶▶▶

自炊塾/ アニマドーレ

学校給食のない高校生は、食育の機会が極端に減るといわれます。2019年スタートの「自炊塾」は、九州大学の比良松道一准教授による人気講座をアレンジしたもの。比良松准教授を市立札幌大通高等学校に招き、「料理をつくる人を増やすこと」を目指した授業を展開します。2022年度はシェフや生産者による特別授業を実施。全6回の自炊塾終了後、生徒の75%が自炊したと報告がありました。また、農の新たな伝え手を育成し、高校生のキャリア探究を行う「アニマドーレプロジェクト」にも協賛しています。



食を通して郷土を知る、社会を知る ▶▶▶

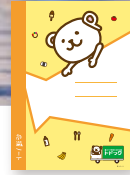
高校生チャレンジ グルメコンテスト

高校生がメニューを考案し、調理して、販売する創作メニューコンテスト。食味を競うだけでなく、各地の食文化や食材を研究・発掘し、地域の大人たちと手を携えてオリジナルメニューを開発します。記念すべき第10回大会となった2022年度は本審査に道内8校が出場し、北海道静内農業高等学校がチャレンジグルメ大賞に選ばれました。なお、商品企画賞(コープさっぽろ賞)に選ばれた北海道霧多布高等学校と北海道静内高等学校の作品は商品化され、コープさっぽろの店舗で実際に販売されました。





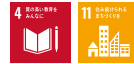
交通安全の大事なポイントも記載された「応援ノート」



新1年生の
交通事故をなくしたい! ▶▶▶

ランドセルカバー贈呈
応援ノート配布

小学校1年生の歩行中の交通事故(重症者・死者)は6年生の約3.7倍(2017年~2021年)というデータがあります。新1年生の歩行者デビューを守るため、コープさっぽろは2010年から、全道の新入学児童に交通安全啓発のためのランドセルカバーを寄贈してきました。取り組みは13年目になりますが、一部ランドセルカバーを配布できていない地域もあります。そのほかの方法でお役に立つことはできないかと考え、2022年9月に全道約180校・約1万5000名の小学校1年生へ「応援ノート」を配布しました。「応援ノート」には交通安全を守るための「やくそく」を記載しています。

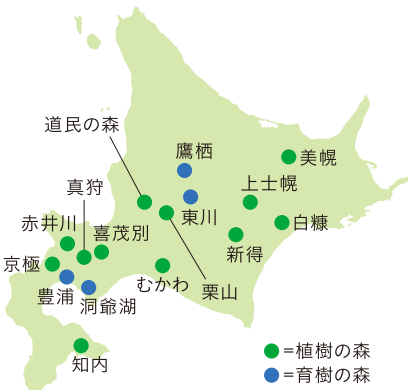


■事故が多い時期・時間帯は? ※政府広報オンラインHPより



ランドセルカバー贈呈市町村数・累計配布枚数 (2010年~2022年4月)

道内138市町村・27万5089枚



CO₂削減とともに北海道の森の
多様な価値と機能を守りたい ▶▶▶

あした
コープ未来の森プロジェクト

北海道洞爺湖サミットが開催された2008年、コープさっぽろはCO₂削減を推進するためレジ袋有料化を開始しました。レジ袋を辞退すると1枚につき0.5円が基金として積み立てられ、植樹等に活用されます。2022年12月までの累計積立金額(レジ袋辞退金)は3億5382万9061円に上ります。森づくりの舞台となる「コープの森」は道内に16カ所あります。その一つ当別町の「Fの森」では100年先に残したい森の姿を、専門家の手助けを受けながら市民が考え、植樹はもとより、植えた樹木が育つための育樹作業を行ってきました。2022年度はコロナ禍で規模を縮小しながらも、3年ぶりに植樹会が開催されました。



北海道をはじめ、行政や地域自治体と協定を結んで森づくりを進める「コープの森」は2022年現在16カ所あり、北海道内全域での森づくりを展開しています。森づくりの内容はそれぞれ異なり、広葉樹を植えるところもあれば、地域の森林組合の方針にそって針葉樹を植えるところもあります。

累計植樹本数
(15年間※2022年度は4702本)

11万9054本



2022年度
人と未来
活動報告



子どもへの食育 ▶▶▶

スクールランチ校で
食育授業

さまざまな事情で給食が実現できない市町村に代わり、子どもたちへ温かい食事を届ける「スクールランチ」。2021年9月の様似小・中学校を皮切りに、22年4月から愛別小・中学校でも提供を始めました。食事を提供するだけでなく、子どもたちの心身育成への貢献を目指して食育授業も実施。コープさっぽろの栄養士が学校を訪れ、調理実習をしながら食の栄養素やバランス良く食べる大切さを伝えています。スクールランチは現在トータルで1日約500食提供。



安全・安心な食を支える ▶▶▶

北海道初の夜間中学へ
お弁当形式の給食提供

学びたいと願う人を食で応援しています。北海道初の公立夜間中学「札幌市立星友館中学校」が2022年4月、札幌市中央区に開校。さまざまな理由で中学校を卒業できなかった人や外国籍の人、不登校等で中学校に通えなかった人などが学んでいます。開校に伴いコープさっぽろではお弁当形式での給食業務を受託しました。摂取カロリー・栄養バランスを考慮したお弁当をお届けしています。夕方の喫食時間に間に合うよう配送し、教員と生徒あわせて22年度は1日に約70食を提供しました。



安全・安心な食を支える ▶▶▶

取扱店舗拡大
PBスイーツ トヨヒコ

2021年7月に発売されたスイーツ部門の独自ブランド「トヨヒコ」は、若い世代を取り込むための新たな試みとして立ち上げました。大惣菜化プロジェクト(右記)のコンセプトを利用して、農産で仕入れる旬の果物などを使い店内で調理しています。カラフルな杏仁豆腐、フルーツサンド、スムージーと、約40品目もの種類を揃えているため売り場には毎日異なるものが並び「今日は何があるかな」と楽しんでもらうのも狙いです。22年には取扱店舗をどんどん拡大して、23年3月20日までに道内31店舗で販売中。販売数74万1221個、供給額は1億8000万円です。



調理時短ニーズの増加 ▶▶▶

店内で手作り
大惣菜化プロジェクト

北海道の世帯平均人数は2.18人と全国的にも低く、札幌市の単身世帯は全世帯の40.8%で食卓を囲む人数は明らかに減少。共働き世帯も増加しており、調理時間は減少傾向です。そこで2020年7月より「大惣菜化プロジェクト」をスタート。お店の生鮮素材を用いて、店内で惣菜を手作りしています。コンセプトは「わくわくする売り場」と「おいしいことが大前提」。カットも調理もプロの技を生かした惣菜は200円前後で販売。販売店舗は拡大中で23年3月20日までに73店舗、アイテム数207個、販売数1121万2203個、供給額は32億4000万円です。





大切にしたい親子のふれあい ▶▶▶ ずっと親子のたからもの えほんがトドック

絵本には想像力を育み、親子のコミュニケーションを円滑にする力があります。でも、高価な絵本を何冊も購入したり、本当に価値のある絵本を選ぶことは簡単ではありません。絵本を通じた「親子のふれあい」や「大切にしたい価値観の継承」を願い、2010年に「えほんがトドック」をスタートしました。「ずっと親子のたからもの」を合言葉に、1〜2歳のお子さん(お孫さん)がいる組合員さんへ合計4冊の絵本をプレゼントしています。22年までに累計11万8817世帯にのべ53万3405冊を配布しました。道内の保育園・幼稚園、子育て支援センターなどでの読み聞かせキャラバンも実施しています。



2023年度配布絵本

2023年8月お届け 『びたっ!』作・絵／あずみ虫

2023年11月お届け 『だれのおとしもの?』作・絵／種村有希子

2024年1月お届け 『どうぶついっぱい!ひっばって だーれだ?』
作／トリスラン・モリ やく／おおはまちひろ

累計 **11万8817世帯**
のべ **53万3405冊** 配布



■活動内容

- ①世界の企業体および組織体で取り組まれているSDGs先進事例を学習する
- ②参加企業および団体での取り組み事例を報告し、推進事例として共有する
- ③連携による効果のある事業を検討し、実施する

参加団体はSDGsの推進に関心のある行政、企業、団体等で構成されています。パートナーシップで北海道の課題を解決していきます。

2022年度 第7回・第8回SDGs研究会
(オンライン開催)合計視聴回数 **1024回**

北海道のSDGs推進の底上げを図る ▶▶▶ 最新事例から学ぶ SDGs研究会

SDGsは人類がこの地球で暮らし続けるために、2030年までに達成すべき目標です。その実現には事業を行う企業・団体の連携が欠かせません。2019年7月、コープさっぽろの呼び掛けにより、北海道で中核的にSDGsを推進することを目指して「北海道SDGs推進プラットフォーム」が立ち上がりました(事務局:コープさっぽろ)。活動の一つが年2回の「SDGs研究会」の開催です。23年3月3日の第8回研究会では北海道大学大学院水産科学研究所海洋生物資源科学部門海洋生物学分野の綿貫豊教授による基調講演「海鳥をとらえて見えてくる人間と海の関係」のほか、先進事例の報告が行われました。



北海道の持続可能な社会づくり ▶▶▶ コープさっぽろの取り組み 紹介サイト／コープサイクル

コープさっぽろが運営するサイト「コープサイクル」が2022年9月にオープン。「北海道で生きることを誇りと喜びにする」ために、北海道の暮らしを豊かにする取り組みや、人と人をつなぎ、未来へつづくサイクル(=循環)にしていくことを目指しています。「#食育」など気になるキーワードから検索することもでき、コープさっぽろが取り組んでいる「旬」のプロジェクトをかなり深く掘り下げています。23年3月現在で掲載レポート13本。※P36(裏表紙)の二次元コードから見られます。



妊婦さんの不安が少しでも和らぐよう ▶▶▶ ファースト チャイルドボックス

「世界一幸せな国」フィンランド政府の子育て支援「母親手当」を参考に2018年4月にスタートした「ファーストチャイルドボックス」は、北海道で初めて出産を控えた妊婦さんへ、ベビー服やおむつなど約30点を無償でお届けする取り組みです。2022年6月には申込み組合員さんが累計3万人に到達。この間、道内で第1子として生まれた赤ちゃんは約6万人で、ほぼ半数に贈られたこととなります。この取り組みを拡大し、2019年10月からは第2子以降出産予定の組合員さんに「コープチャイルドボックス」をお届けしています。



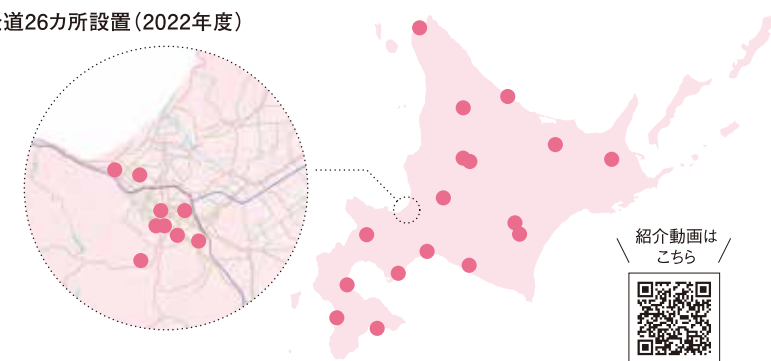
地域に子育て コミュニティスペースを ▶▶▶ 親子の遊び場 トドックステーション

子どもを自由に遊ばせたい、子育てに役立つイベントに参加したい。そんな当たり前の希望を叶えるのが、年々難しくなっています。そこで「親子で気楽に過ごせる空間を作ろう」と、2016年からトドックステーションをオープン。入場無料で、授乳室やおむつ交換台も設置。現在は宅配トドックのセンター内に21カ所、店舗に併設された5カ所でご利用いただいています。新型コロナ対策で22年度も一部制限を設けましたが、感染対策に配慮して親子人形劇や、メーカー様にご協力いただき離乳食作りなどの各種講座も開催。多くの親子にご参加いただくことができました。



23年1月24日オープンした新川トドックステーション

■全道26カ所設置(2022年度)



紹介動画は
こちら



2022年度利用者数
1万5341人

環境理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本として、組合員さん、役員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

7つのお約束

- お約束1・つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かな暮らし」をお約束します。
- お約束2・いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。
- お約束3・組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することをお手伝いをお約束します。
- お約束4・誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。
- お約束5・道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。
- お約束6・地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。
- お約束7・平和で、人間らしい「豊かな暮らし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じて組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③この方針を全役員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所、組合員家庭から出る資源物をエコセンターで回収しています。回収量は毎年増加しており、2022年度は37,972tの資源物を回収しました。これは23,987tのCO₂削減に相当します。

●エコセンター回収量

(単位:t)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2021年度比
ダンボール	16,870	16,617	16,991	17,602	17,598	17,178	16,799	18,344	18,649	18,168	97%
紙パック	289	292	280	283	276	272	273	274	282	284	101%
週刊ドック	8,262	8,950	9,948	11,041	12,085	13,788	14,735	14,637	15,573	15,993	103%
新聞紙	976	975	983	1,000	954	906	893	704	815	833	102%
発泡	416	384	411	388	375	374	346	372	351	316	90%
ペットボトル	60	58	61	66	47	32	34	42	72	106	147%
スチール缶	30	27	18	24	16	14	12	14	17	12	71%
アルミ缶	44	44	46	58	68	62	55	60	61	74	121%
PPバンド	41	40	42	44	43	33	32	35	33	30	91%
内袋	128	125	117	116	116	123	123	119	119	122	103%
廃食油	726	773	813	854	866	878	901	933	911	740	81%
古着古布	—	21	671	728	747	838	970	1,184	1,324	1,295	98%
合計	27,841	28,306	30,379	32,203	33,190	34,499	35,172	36,718	38,208	37,972	99%

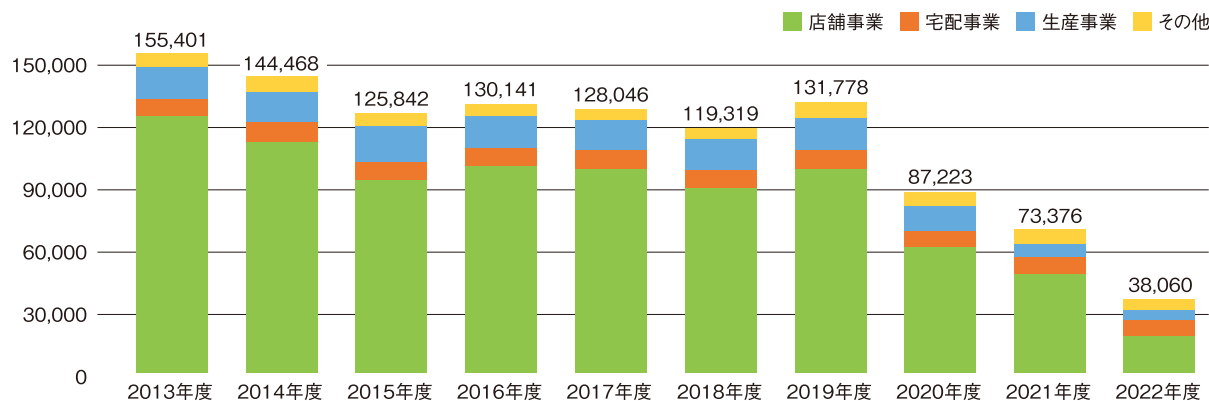
古着回収の売り上げを北海道ユニセフ協会に募金

宅配ドックの資源回収で古着回収を行い、その売上金のうち、2022年度は150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。古着はカンボジアでリユースされるか、または、工業用ぞうきんにリサイクルされています。

環境データ報告

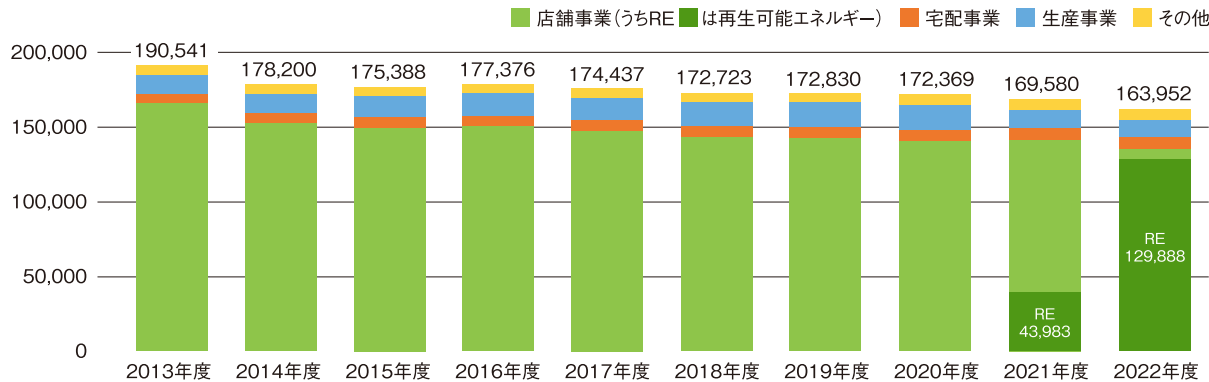
CO₂排出量 ※単位:t

目標は2030年度までに2013年度比で50%の削減です。2022年度時点で76%削減しています。



電気使用量 ※単位:千kWh

コープさっぽろは2018年10月にRE100に加盟しました。事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指しています。再生可能エネルギーの使用目標は2030年度までに60%、2040年度までに100%です。2021年12月から店舗で使用する電気を再生可能エネルギー由来へと切り替えを進めています。2022年度時点で使用する電力の79%が再生可能エネルギーです。



※電気由来の排出量は調整後排出係数を用いて算出しています。2022年度の排出係数は未発表のため、2021年度の係数を用いて算出しています。

●エネルギー使用料(電気以外)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2021年度比
重油(千L)	3,633	3,434	4,033	3,186	2,657	2,292	2,343	2,050	1,242	1,328	107%
灯油(千L)	1,778	1,725	1,704	1,817	1,808	1,670	1,500	1,406	1,327	1,198	90%
都市ガス(千m ³)	1,006	979	1,154	1,358	1,324	1,285	1,359	1,394	1,484	1,445	97%
LPガス(千m ³)	501	490	464	492	513	544	604	642	673	649	96%
軽油(千L)	1,956	2,097	2,189	2,228	2,216	2,198	2,284	2,409	2,489	2,480	100%
ガソリン(千L)	143	158	169	235	351	402	1,346	1,575	1,447	1,434	99%

2019年度からチャーター車両で使用した車両燃料も計上しています。

※端数処理を四捨五入により行っていることから、総量と内訳の計とが一致しない場合があります。

組合員動態

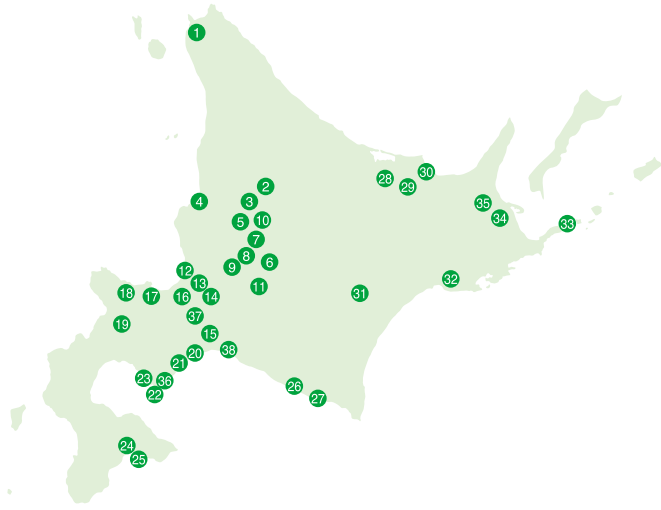
組合員数と組織率

1,968,441人(70.4%) 2,796,536世帯

組合員数は2023年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2022年1月末の住民基本台帳を使用しています。

■都市別組合員組織率

1 稚内市	5,712人(32.8%)	17,422世帯
2 旭川市	144,858人(81.7%)	177,393世帯
3 深川市	10,681人(100.2%)	10,655世帯
4 留萌市	11,645人(107.2%)	10,862世帯
5 滝川市	15,902人(75.1%)	21,166世帯
6 富良野市	11,604人(122.1%)	9,502世帯
7 砂川市	8,281人(95.4%)	8,678世帯
8 美瑛市	12,517人(112.8%)	11,101世帯
9 岩見沢市	36,283人(87.9%)	41,262世帯
10 赤平市	6,117人(108.7%)	5,626世帯
11 夕張市	4,916人(117.4%)	4,188世帯
12 石狩市	24,418人(86.4%)	28,247世帯
13 江別市	42,309人(71.6%)	59,124世帯
14 北広島市	25,264人(89.9%)	28,091世帯
15 千歳市	26,528人(52.1%)	50,961世帯
16 札幌市	677,363人(62.3%)	1,087,058世帯
17 小樽市	55,501人(105.1%)	52,817世帯
18 余市町	9,504人(114.7%)	8,283世帯
19 倶知安町	6,914人(86.8%)	7,967世帯
20 苫小牧市	71,268人(78.5%)	90,754世帯
21 白老町	9,605人(103.2%)	9,310世帯
22 室蘭市	29,272人(66.5%)	43,986世帯
23 伊達市	10,530人(49.4%)	21,330世帯
24 北斗市	17,251人(94.1%)	18,337世帯
25 函館市	116,536人(83.5%)	139,599世帯
26 新ひだか町	8,232人(80.9%)	10,176世帯
27 浦河町	8,918人(134.0%)	6,653世帯
28 遠軽町	12,666人(128.0%)	9,894世帯
29 北見市	47,415人(76.9%)	61,631世帯
30 網走市	16,724人(92.9%)	18,010世帯
31 帯広市	51,097人(56.9%)	89,868世帯
32 釧路市	74,167人(80.1%)	92,642世帯
33 根室市	8,905人(73.3%)	12,151世帯
34 別海町	5,789人(85.2%)	6,791世帯
35 中標津町	8,023人(75.9%)	10,577世帯
36 登別市	18,274人(84.4%)	21,640世帯
37 恵庭市	19,566人(69.7%)	28,091世帯
38 むかわ町	4,435人(121.6%)	3,647世帯
表記以外の市町村合計	255,024人(67.5%)	377,691世帯
道外	19,495人	



■年度別組合員動態

年度	項目	組合員数(人)	前年比増加数(人)	増加率(%)	
				前年比	2017年度比
2017		1,709,000	54,343	103.3	100.0
2018		1,762,681	53,681	103.1	103.1
2019		1,811,207	48,526	102.8	105.9
2020		1,868,534	57,327	103.2	109.3
2021		1,921,098	52,564	102.8	112.4
2022		1,968,441	47,343	102.4	115.1

※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法廷脱退処理しました。
 ※2019年3月20日、住所不明・未利用者2,800名を法廷脱退処理しました。
 ※2020年3月20日、住所不明・未利用者1,236名を法廷脱退処理しました。
 ※2021年3月20日、住所不明・未利用者263名を法廷脱退処理しました。
 ※2022年3月20日、住所不明・未利用者155名を法廷脱退処理しました。
 ※2023年3月20日、住所不明・未利用者145名を法廷脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	66,984人(45.3%)	147,899世帯
北区	101,086人(65.3%)	154,731世帯
東区	75,451人(51.9%)	145,265世帯
白石区	86,239人(68.8%)	125,352世帯
豊平区	76,839人(58.5%)	131,333世帯
南区	66,609人(91.0%)	73,204世帯
西区	73,285人(61.8%)	118,504世帯
厚別区	43,364人(65.4%)	66,294世帯
手稲区	51,570人(72.7%)	70,927世帯
清田区	35,936人(67.1%)	53,549世帯

基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年)7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年)10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常務)	●理事長 大見 英明 ●専務理事 岩藤 正和 ●常務理事 米内 徹 ●常務理事 小松 均 (2023年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)

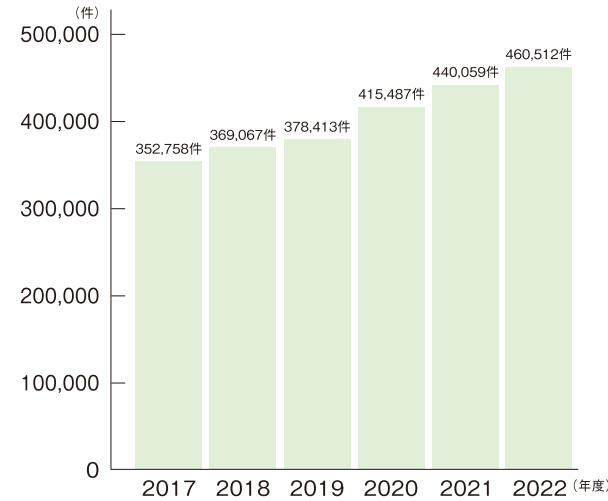
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

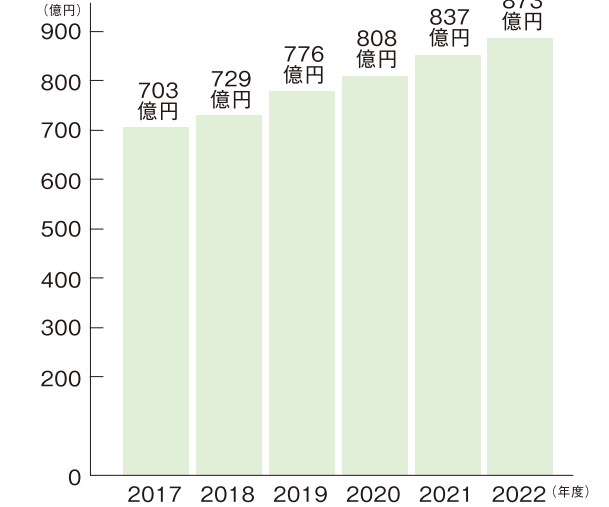
年度	項目	金額(千円)	前年比増加額(千円)	増加率(%)	
				前年比	2017年度比
2017		70,278,859	1,933,994	102.8	102.8
2018		72,903,778	2,540,863	103.7	106.7
2019		77,599,550	4,779,828	106.4	113.5
2020		80,809,922	3,210,372	104.1	118.2
2021		83,674,043	2,864,121	103.5	122.4
2022		87,309,263	3,635,220	104.3	124.2

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。定款上の出資金(10千円単位)は86,877,191千円となります。

資料 宅配(トドック)の登録者数

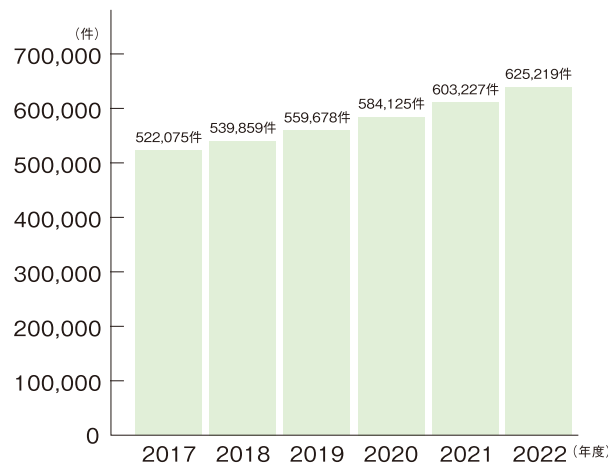


■年度別出資金残高

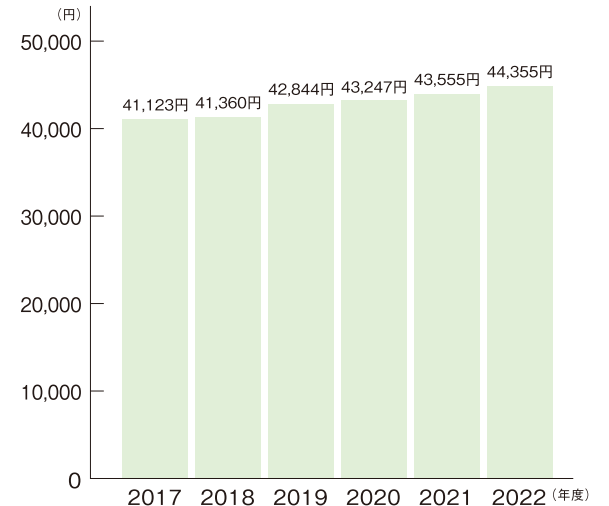


資料 CO・OP共済の状況

■共済4商品の加入者数



■1人当たりの平均出資金



コープさっぽろの取り組みが貢献するSDGs

【SDGs対比表】

コープさっぽろでは、「人・食・未来」を「つなぐ」ことを目標に毎年さまざまな事業を行い、SDGsすべての実現を目指しています。

取り組みのテーマ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
人と人をつなぐ事業	ひとり親の高校生への育英奨学金	P18	●		●														
	大学生育英奨学金	P18			●				●										
	職員奨学金返済支援制度	P18							●										
	ウクライナ緊急募金	P19														●	●		
	高齢者見守り協定	P19			●							●							
	ホッキョクグマ応援プロジェクト	P19			●										●	●			
	トドックフードキャラバン	P19	●	●									●						
	コープのお手伝い こまるとコープ	P20											●						
	コープの家族葬	P20											●						
	高齢者向け運動教室	P20			●							●						●	
障がい者雇用	P20							●										●	
人と食をつなぐ事業	食べる・たいせつフェスティバル	P21			●							●						●	
	北海道ロジサービス	P22							●										
	移動販売車 おまかせ便カケル	P23		●								●							
	宅配トドック	P23										●	●						
	夕食宅配サービス	P23			●							●							
	畑でレストラン／ぶどう畑でレストラン	P24												●					
	高校生チャレンジグルメコンテスト	P24				●								●					
	自炊塾／アニマドール	P24													●				
	プライベートブランドなるほど商品	P25													●				
	夜間中学へ給食提供	P26		●		●													●
スクールランチ校で食育授業	P26		●		●							●						●	
大惣菜化プロジェクト	P26											●							
人と未来をつなぐ事業	海のクリーンアップ大作戦!	P05											●		●	●		●	
	店舗 生ごみ処理機導入	P08											●	●					
	再生可能エネルギー100%電力切り換え	P10					●							●					
	壊れた魚函を買い物かごに	P10											●	●	●				●
	ランドセルカバー 応援ノート配布	P27				●						●							
	コープ未来の森プロジェクト	P27											●	●		●			
	SDGs研究会	P28																	●
	トドックステーション	P28											●						
	えほんがトドック	P29				●													
	ファーストチャイルドボックス	P29											●						
コープさっぽろ取り組み紹介サイト	P29												●						
買ってカーボンオフセットキャンペーン	P36													●		●			

事業所数と形態

本部

本部	1カ所
地区本部	8カ所(札幌、帯広日高、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川)

店舗

108店舗(2023年3月20日現在)28市19町

札幌市	28店舗	留萌市	1店舗	中標津町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	8店舗	北見市	3店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	網走市	1店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	遠軽町	2店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	美幌町	1店舗
小樽市	2店舗	木古内町	1店舗	帯広市	2店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	室蘭市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	赤平市	1店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	別海町	1店舗
美唄市	1店舗	新ひだか町	1店舗	登別市	3店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	恵庭市	1店舗
旭川市	6店舗	えりも町	1店舗	福島町	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	羽幌町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	知内町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗	大樹町	1店舗
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムトドックセンター

41センター10デポ(2023年3月20日現在)

移動販売車

95台(全道134市町村)

生産工場

江別生鮮加工センター

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

コープの家族葬ホール25式場

提携葬儀社2式場

関係会社

株式会社エネコープ	コープトレーディング株式会社
株式会社トドック電力	コープ協同保険株式会社
コープフーズ株式会社	株式会社コープ・パートナーズ
株式会社ドリームファクトリー	株式会社中央スーパー
北海道はまなす食品株式会社	株式会社札幌駅立売商會
北海道ロジサービス株式会社	シーズ協同不動産株式会社
マテハンエンジニアリング株式会社	株式会社兼子
株式会社M・G建築	有限会社光電社
株式会社大雪水資源保全センター	さくら食品株式会社
株式会社コープトラベル	株式会社コープフレエ
デュアルカナム株式会社	

2022年度の新設

店舗	2022年10月	そうえん店	宅配	2022年12月	新川センター
----	----------	-------	----	----------	--------